プラハ・ワルシャワ（クラクフ）紀行

○ プロローグ

今年の3月に、T社時代の同期のMHさんとグアテマラ（フローレス）・コスタリカ行きを一年前から、計画し、飛行機、ホテルも押さえて、以下の日程表を、何時ものように、私の部屋のドアに張り出し、行こうとしていたが・・・・・・。

グアテマラ・コスタリカの日程

1. 2018年3月14日（水） 昭島駅（9:43 分発の青梅線）―立川―西国分寺―東松戸―成田空港駅（11:57 分着）へ。アエロメヒコ航空57便（15:25 分発）で、メキシコシティ空港（13:00 分着）へ。アエロメヒコ航空678便（16:10 分発）にて、グァテマラシティ空港へ（18:05 分着）。タクシーにて、Hotel Royal Palaceへ。（市内ツアーあれば、明日分、申し込む。また、フローレスの一日ツアーも有れば、16日分申しこむ。）
2. 3月15日（木） グァテマラシティ市内観光。
3. 3月16日（金） 4時起きして、タクシーにて、5時までに、グァテマラシティ空港へ。6：00時発のAvianca7972便にて、フローレス空港へ。7：06分着。タクシーで、Hotel Casazulへ。到着と同時に、観光案内所か、ホテルで、一日ツアー申し込み、一日ツアー参加。
4. 3月17日（土） 4：30分起きして、タクシーにて、空港に、6時前までに行く。Avianca7979便（7:37 分発）にて、グァテマラシティ空港へ（8:35 分着）。Avianca749便（9;40 分発）にて、テグシガルパ空港へ（11:00 分着）。テグシガルパ空港から、Avinca711便（11:30 分発）にて、サンホセ空港（13:08 分着）へ。タクシーにて、 Hotel Palma Realへ。二日分のツアーを申し込む。サンホセ市内観光。
5. 3月18日（日） 一日ツアー参加。
6. 3月19日（月） 同上。
7. 3月20日（火） タクシーで、サンホセ空港に、10時までに、行く。アエロメヒコ航空691便（12:30 分発）にて、メキシコシティ空港へ（16:00 分着）。アエロメヒコ航空58便にて（0:5 分発）、成田空港へ。3月21日（水）6：20分に成田空港着。

出発の2週間前くらいに、義母が、倒れ、カミさんが、実家に、帰った。それと入れ替えに、次女が、飛んできて、今回の旅行を、『キャンセルしなさい！』と一喝され、スペイン語圏だし、同期のMHさんと碁を打ちながらの珍道中で、楽しみで、延期も検討したが、次女の大人振りに感心し、決心がつき、MHさんにも、中止連絡した。

ホテルのキャンセルは、簡単に出来たが、安売りの飛行機のチケットが、中々、簡単にキャンセルできない。何度も、エックスペディアに電話連絡して、どうにか、キャンセルできたようだが(？)、リファンド・リクエストは、直接、インターネットで航空会社から、自分で要求してくださいとのことで、英語版のリファンド・リクエストをやってみたが、回答もなく、実際出来たのか不明。8週から12週後に、返金されるらしいが、今だ、返金されない。MHさんと二人分なので、40万円くらいなので、返還されないと大変である・・・・。

義母は、その後も、入院中であるが、6月になって、プラハ、ワルシャワ(クラクフ)へは、何時もの一人旅であるが、以下の日程表を、またも私の部屋のドアに張り出し、会社にも、休暇届を出して、行くことにした。

1. 2018年6月13日(水) 昭島駅(8:36分発)の東京行きの青梅線で西国分寺駅まで、西国分寺駅から、武蔵野線で、東松戸駅まで(9:57分発)京成成田線スカイアクセス線(アキセス特急)で、成田空港(10:58分着)まで。OS(オーストリア航空)52便(13:35分発)にて、ウイーンへ(18:35分着)、OS711便にて(20:00分発)、プラハ国際空港へ(20:50分着)、電車で、プラハ中央駅まで、タクシーにて、ホステル・スクレップへ。(頼めば、ホテルに、送迎シャトルバスあり。)
2. 6月14日(木) 三日分のフリー・チケットを買って、市内見物
3. 6月15日(金) 市内見物
4. 6月16日(土) 午前中、市内見物、昼食後、ホテルのシャトルバスで空港へ。LH(ルフトハンザ・ドイツ航空)1397便にて(14:15分発)、フランクフルト・マイン国際空港へ(15:20分着)。LH1350便にて(16:30分発)、ワルシャワ・フレデリック・ショパン空港へ(18:05分着)。タクシーにて、スマート2ステイポッドリパミ・ホテルへ。
5. 6月17日(日) 一日フリー券買って、ワルシャワ市内見物
6. 6月18日(月) ワルシャワ・フレデリック・ショパン空港から、7:35分発の LOT ポーリッシ・エアーライン航空でクラクフ空港へ。クラクフ市内見物、午後、バスにて、アウシュビッツへ。18:05分発の同航空で、ワルシャワ空港戻り。タクシーで、ホテル戻り。
7. 6月19日(火) 4時半起きして、5時半に、タクシーで空港へ。7:10分発のLH1353便にて、フランクフルト空港へ。(8:55分着) 12:10分発のLH4948便にて、東京羽田空港へ。(6月20日(水)6:35分着)

○ 6月13日（水） プラハへ

日程表に従って、昭島ー西国分寺ー東松戸、と電車で時刻通りに進んだが、東松戸駅で、昼飯のサンドイッチ、おにぎり、お茶など買っていたら、予定の電車を一本乗り遅れてしまったが、11時過ぎには、成田空港第ーターミナル駅に着いた。空港の案内のお姉ちゃんに、オーストリア航空のチェックイン・カウンター聞いて、成田ーウィーン、ウィーンープラハの航空券を取得した。近くの両替所に、ポーランドのズロチ（ズウォティ）有りと看板が出ていたので、チェコのコロナも有るか聞いたら、あるとのことで、両方、3万円＋α換金した。

ウィーンまでは、隣も空席で、通路側の隣は、日本の叔母ちゃんで、話すこともなく、機内で、最近は、少々飲んだが、余り飲めず、時間を潰すのが、大変であった。長時間のフライト後、何年か前に来たことのあるウィーン空港で、トランスファーの搭乗口まで、表示に従って空港内を進み、プラハ行きの飛行機に搭乗。これが、プロペラ機で、少々、不安になったが、50分くらいのフライトだったので大きなリックは、棚に入らず、座席の下で、座るのが、少々きつかったが、無事、プラハ空港へ。

（少々、乗った当初、不安になったプロペラ機から）

（ウィーン空港から、プラハまでのプロペラ機）

今回のホテルは、プラハ中央駅の近くなので、列車で行けるのかと思ったら、バスで、近くの地下鉄駅まで行き、地下鉄で、プラハ中央駅に、行くらしい。観光客は、皆、バスの切符を買って、バスに乗り込んでいた。バス停にいたお姉ちゃんに、バスの切符買い方教わったら、バスの切符が、私の持っているコロナ札では、買えず、コインか、クレジットカードでしか買えないとのこと。暗くなり、どうせ、プラハ中央駅からは、タクシーと考えていたので、バス、地下鉄とウロウロするより、空港から、タクシーで行くことにした。タクシー乗り場で乗る前に、このホテルまで、どれくらいか聞いたら、八百何十コロナ（4、～5千円位）とのことなので乗ることにした。

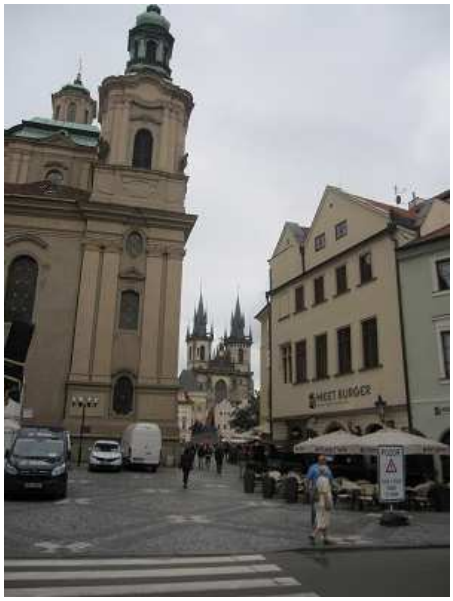
着いた時には、あたりは暗く、ホテルの入り口から入ろうとしたら、鍵が、掛かっているらしく、中も暗く、一瞬、予約したホテルは、閉店か・・・・と、少々焦ったが、隣のレストランのドアが開くので入って、給仕のお兄ちゃんに、隣のホテルは、閉まっているのか聞いたら、このレストランは、ホテルのレストランで、奥のフロントの部屋まで案内してくれた。パソコンの画面を見ていたフロントのお姉ちゃんには、まず、クレジットで、宿泊三日分払い、聞くと空港までのシャトルバスが有るとのこと。（実際は、なかった・・・。）部屋の鍵を渡してくれて、二階の迷路のような15号室へ案内してくれた。ホテルの入り口は、この鍵を、かざさないと開かないこと分かった。朝食は、8時から10時までだったか。ちょっと迷路のような廊下で、トイレもシャワーも、共同で、私の部屋から遠かったが、早々に、歯を磨いて、ベッドにダウン。

○ 6月14日（木） プラハ市内見物

昨夜、こちらの時間で、相当早く寝たので、4時過ぎには、起き出して、今日のプラハ市内の回るところを地図上で探したりして時間を潰し、5時過ぎには、シャワーを浴びて来た。外が、明るくなったので、ホテルの周りを少々散歩して戻り、8時丁度に、ビュッフェ方式の一階のレストランの朝食にいったら、タイのお姉ちゃん達が、いて、聞くと、ウィーンから、列車で、プラハ駅まで来たとのことで、空港からのタクシーの値段を聞いてきた。八百何十コロナで、時間の割には、高かったかなど話した。一人は、日本の気賀（滋賀県？）に、居たことが有るとのことだが、日本語は、挨拶くらいしか出来ない。また、空港への行き方聞いてきたが、ホテルのシャトルバスが、有るらしいと話したが、（実際は、無かった。）彼女達は、既に、何日か市内観光済ませていて、観光地での両替は、気をつけた方が良いとか（悪質両替所に、引っかかったのか？）、乗り物の共通券の三日券は、ホテルの近くのコンビニで買えることなど教えてくれ、有り難い情報交換になった。

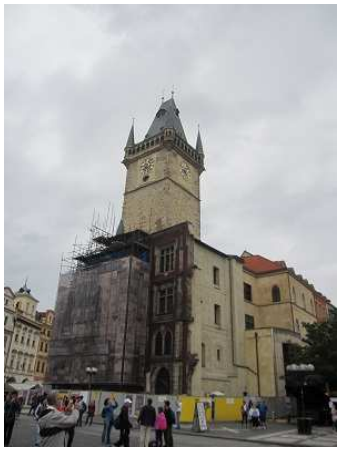
（泊まった、ホテル入り口）　（朝一番に、食堂で、情報交換したタイのお姉ちゃん）

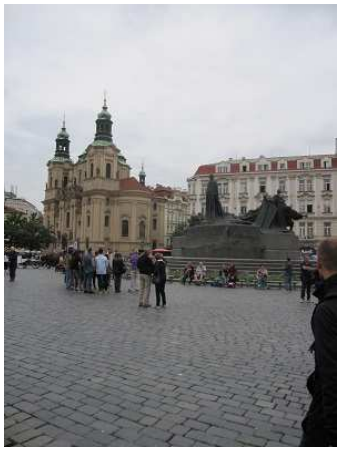
早速、近くのコンビニで、三日券、買ってきた。ホテルの前のトラム乗り場から、まず、プラハ中央駅の地下鉄乗り場まで、そこから、地下鉄のC線から、A線に乗り換えて、二つ目が、プラハ城への近くの地下鉄かと勘違いして、降りてしまい、しばらく、うろついて、迷いながらも、プラハ市内観光地歩き回った。



（聖ミュラージ教会）　　（ティーン教会）

（聖ミュラージ教会）　　（旧市街広場とヤン・フス像）





（旧市庁舎）　　（改修中の天文時計）

（ヤン・フス像）

（キンスキー宮殿）

キンスキー宮殿が、中々、分からなくて、広場にいたお巡りさんに聞いたら、上の写真とのこと。広場から、観光客で賑わうカレル橋を目指したが、街並みが、私にとっては、迷路のようで、分からず、降りた地下鉄駅まで戻った。駅の近くのお店のお姉ちゃんに、カレル橋の場所聞くと川にぶつかったら、川沿いに、降ればあるとのこと。行って見たが、川沿いに見えたが、遠くから、写真を取っただけで、一旦ホテルに帰ることにした。

（川沿いのカレル橋）

地下鉄のプラハ中央駅から、トラムで、ホテルの近くの停留所まで戻って、ホテルで、昼食にした。フロントのお姉ちゃんに、空港までのシャトルバスの乗り方聞いたら、空港へのシャトルバスは、プラハ中央駅の隣の地下鉄駅とプラハ中央駅（C線）から、ムゼアム駅で、A線に乗り換えて、7番目の駅から、シャトルバスが、出ているとのことで、ホテルのシャトルバスはないこと分かった。早速行って見ることにした。中央駅の隣駅のバス停に（何度か、駅にいた人に、聞いて探して）行って見たが、停まっているバスの運ちゃんに、空港へ行くか聞いてみたが、ここからは、行かないとのこと。次に、

ムゼアム駅から、A線に乗り換えて7番目の駅を目指して乗っていたら、途中から、大きな旅行鞄持った日本の青年二人が乗ってきたので、空港へ行くのか聞いたら、“そうだ”とのこと。少々、地下鉄の車掌は、確認に来ないなど、話したら、一人は、ドイツで、酷く罰金取られたとのこと。私は、一度、オランダでは、許してもらえたなど話した。空港行き確認できたので、着いた駅で、私は、一緒に降りて、反対方向に戻る地下鉄に乗って戻ってきた。次いで、プラハ城の近くの地下鉄の駅で降りて、プラハ城へ。

（プラハ城への途中の坂）

（坂の途中からのプラハ市内）

地下鉄駅から、観光客らしき人達に、付いて行った先が、プラハ城の入り口であったが、写真のように、たいした坂ではないが、私は、しんどく、他の観光客に、追い越されてしまう。歳か・・・・・。途中で、検問所があり、荷物検査。

（プラハ城入り口）

（聖イジー教会）

（聖イジー教会）

（聖ヴィトー大聖堂）

（聖ヴィトー大聖堂内部）

聖ヴィトー大聖堂内部に入るのは、入り口でそれなりの列を並んで入る。

（第二の中庭のコール噴水）

（第三の中庭）　（帰る際のイジー教会）

（聖イジー教会内部）　（帰りのプラハ城の坂）

地下鉄ートラムと乗り慣れて、ホテルに戻った。夕飯を、一階のレストランで食べて、戻る際、タイのお姉ちゃん達に、偶然会ったので、地下鉄のムゼアム駅から、7番目の駅から、シャトルバスに乗れて空港に行けること教えてあげた。現在は、スマホの時代なので、私の示した地下鉄のマップを、スマホで写真に、撮っていた。確かに、

私の持っているガラ系の携帯は、相当の時代遅れであるらしい。（GPSで、日本及び現地時間、両方表示して、私には、それなりに、便利であるのだが、・・・・。）歯を磨いて、今日も早めの就寝。

（ホテルのレストラン内部）

（今日の夕飯）

○ 6月15日（金） 市内見物（2）

今日も、早くから起き出して、今日回るところを書き出し、最寄の地下鉄駅なども、書き込んだ。今日も、食堂に、一番乗りしたが、タイのお姉ちゃん達は、今朝、帰ったようで、来なかった。代わりに、グッド・モーニングと若い夫婦が、入ってきて、聞くとハンガリーからとのこと。娘さんが、二人で、今は、お腹に、もう一人いて、男の子が欲しいとのこと。数年前に、ブタペストに行ったことなど話したか。

今日は、午前中は、国立博物館、南の聖イグナチオ教会等を回ることにした。昼飯は、地球の歩き方に出ているレストランのピヴォヴァルスキー・ドゥームのチェコ料理と決めた。二日目ともなると、トラム、地下鉄は、迷うことが無くなった。

地下鉄駅名になっているムゼウム駅でおりると、国立博物館は、直分かったが、改修中で、残念ながら、中には入れないようだ。写真など撮っていたら、何故か、中年の叔母ちゃんと話すことになり、共産主義の時代は、何事も、灰色で、今のように、華やかではなかったなど話してくれた。疑問に持っていたチェコとスロバキヤは、何故別れたのか聞いてみたが、日本人と韓国人のように、似たもの同士が嫌いあうもの（確かに、兄だと思っていた韓国が、弟の日本に、植民地にされてたのであろうから、慰安婦に象徴されるように、相当、韓国人は、日本が、嫌いなのであろうか？）のようで、スロバキヤの人達は、どんどんチェコに、入ってくるので迷惑で別れたようなことを話していた。

次いで、Karlovo Nameste駅で降りて、カレル広場のベンチで少々、休憩。何故か、難民救済募金のお兄ちゃんに、声を掛けられ、数コロナ募金させられた。聖イグ

ナチオ教会探し回ったが、声を掛けた叔母ちゃんの直ぐ隣の建物が、聖イグナチオ教会だった。

（改修中で入れなかった国立博物館）

（聖イグナチオ教会）　（教会内部）

次いで近くの聖キリルと聖メトディウス教会へ。

（聖キリルと聖メトディウス教会）（教会内部）

ここも、近くの新市街市庁舎へ。

（新市街市庁舎）

チェコ料理のレストランのピヴォヴァルスキー・ドゥームを探し当てて入ることにした。

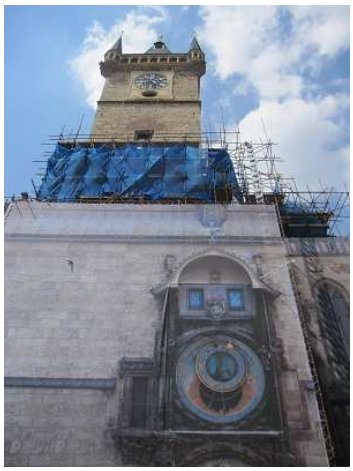
（レストラン内部）

（何故か、食べ切れなかった）

やはり、カレル橋には、行って見ることにした。最初の日に、迷ったので、また、少々同じ場所を見て回ってから、カレル橋に行くことにした。

（再度のヤン・フス像）

（ティーン教会）



（天文時計）

（迷った街並み）

（カレル橋塔）

（観光客で賑わうカレル橋）

（聖サン・ネボムツキー像）

地下鉄、トラム使って、ホテルに戻って、ホテルのレストランで、今日も、夕飯、早めの就寝。

（プラハ本駅の地下鉄乗り場の広場）

（ホテルのレストランでの夕飯）

○ 6月16日（土） ワルシャワへ

ワルシャワへの飛行機は、午後の14時過ぎ、朝もゆっくり起き出して、シャワー、ホテルの朝食。午前中、時間が有るが、今日は、市内見物は、止めにして、ゆっくり、トラム、地下鉄、バスを使って、空港へ。全部、三日券で、乗れた。空港で、昼食を取って、早くから、のんびりしていたが、見ると両替所があったので、ユーロならば、日本の銀行でも、両替できるだろうと、残ったコロナを、ユーロに両替した。

（プラハの地下鉄）

（プラハ空港）

ワルシャワまでの飛行機は、ここからは、ルフトハンザ航空、一度、フランクフルトを経由してワルシャワ・フレデリック・ショパン空港へ。18時ごろ着いた。空港から、ホテルまでは近いので、タクシーで。

フロントの青年は、日本の漫画を見ていたらしく、英語は、旨いので、ワルシャワの地図と近くのトラムの停留場名を紙に書いてもらった。『Hynka（ヒンカ）』と変わった名前で、7番、9番、15番が、市内へ行っているとのこと。飛行機の中で、夕飯は食べたので、教わった、近くのスーパーへ行って見たが、朝食になるようなものは、売っておらず、大きな水のペットボトルと、持ち歩ける水のペットボトル、ジュースなど買ってきた。日曜日は、このスーパーは、休みだそうなので、有料だが、明日は、ホテルの朝食を食べることにした。朝、フロントに来て、頼のめとのこと。今日も早めの就寝。

○ 6月17日（日） ワルシャワ市内見物

ここのホテルは、シャワー、トイレ付き、ただし、大きな黒いビニール袋付きの塵入れが有るので、トイレ・ペーパーは、こちらで、ちょっと厄介である。7時丁度に、フロントに行ったら、朝食は、20ズオティとのこと。ホテルの前とのことだが、何故か、通り過ぎてしまって、散歩中の犬を連れた叔父さんに、この辺にレストランは無いか、聞いたら、ホテルの前の木製階段を登る目立たないレストランであった。

レストランの女主人は、英語が通じず、夕飯が、食べられるか聞いただけだったが、周りの労働者風の叔父さんが、食べられると教えてくれた。朝食は、ビュッフェ方式だが、ありふれた料理で、パンにバター、コーヒー、ハム、チーズ、リンゴジュース、果物など食べたか。フロントは、お姉ちゃんに代わっていたが、一日券は、トラムの停留所近くの自動販売機で買うこと教わった。自動販売機は直ぐ分かって、買っていた青年に、買い方教わって買った。まず、ワルシャワの中心駅らしい地下鉄の Centrum 駅へ。

（乗ったワルシャワのトラム）

（地下鉄駅の Centrum 駅周辺の市街
中央、たまたま撮った文化科学宮殿）

ここから、ホテルで貰った地図の一番北側から見て行こうと③のカティン博物館へ。ここは、後で気付いたのではあるが、地球の歩き方のワルシャワ編の地図上にも、説明も紹介もない。（今では、スターリンのソ連の残虐行為が、明らかであるが、ソ連は、ドイツのせいにしているので、日本では、中立装って取り上げないのであろうか？）

地下鉄駅を降りてから、結構歩いて探し回った。探し当てて着いた時は、まだ、開館でなく受付の叔父さんが、待合室のようなところに、案内してくれた。開館時には、多分、ポーランドのお年寄りの男性グループが、何人か入って来ただけ。私は、観光客の殆どいない、博物館内を一人で、歩き回って、写真を撮ってきた。

（カティン博物館入り口）

（第二の入り口？）

（何故か、スターリンの写真）　　（殺された兵士の遺品か）

（遺品）

（虐殺された人々の名簿か）　　（カティンの森）

第二次大戦では、ドイツによる六百万人のユダヤ人のジェノサイドは、有名だが、それに劣らず、ポーランドの人々も、ドイツとソ連から、五百数十万人も、戦死させられたジェノサイドは、余り、有名でないのは、戦勝国のソ連も、手を染めているからであろうか。

カティンの森では、ベリヤの提案で、スターリンも承認した約二万二千人のポーランド軍将校及び国境警備隊員、警官、一般官吏、聖職者がソビエト内務人民委員部（NKVD）によって銃殺された・・・・・。

次いで、王宮広場へ。

（ジグムント三世の像と旧王宮）

（王宮広場）

（聖アンナ教会）

（旧王宮）

（旧王宮中庭）

（旧王宮内部）

（王宮広場）　　（旧王宮）

次いで、ホテルで貰った地図上の①で、期待して、地下鉄を乗り回して、地下鉄駅から、降りて、結構、歩き回って探し当てて行ったコペルニクス・サイエンス・センターが、何だ、ここは、と言う感じで、くたびれもうけであった。

同じく、地図上の②のショパン博物館は、コペルニクス・サイエンス・センターからは、近いのであるが、地下鉄駅をおりてから、何人にも、通行人に聞いて探し当てた。

（コペルニクス・サイエンス・センター）（登った屋上から、サッカー・スタジアムか？）

（屋上）　（文化科学宮殿か？）

（ショパン博物館）　（帰る際の一枚）

（熱心に、楽譜を見ながら聞いている）

（日本の叔母チャマたち）

ショパン博物館の帰りに、降りた地下鉄駅の近くに、コペルニクス像と聖十字架教会があり、行って見た。

（コペルニクス像）　（聖十字架教会）　（十字架背負ったキリスト像）

（教会内部）

次いで、お腹が空いたので、朝のうち探して、書き出しておいたポーランドの民族料理の店“Fork　Gospoda”を探した。これが、中々、見つからず、何人にも、人に聞いて、かなり歩き回って探し当てた。

出てきたポーランド民族料理は、農民の食べる料理とのことで、見た目は、そんなに、多くないのであるが、とても食べ切れなかった。

（レストラン内部）

（食べたポーランド民族料理）

ワルシャワ市内で、まだまだ、見て回るところは有ったが、地下鉄駅への戻りで、日曜日でもやっているコンビにあり、明日、明後日の朝食用に、菓子パン、ジュース、トマトジュース、バナナ等買い込んで、歩き疲れたので、Centrum駅から、トラムに乗って、ホテルに、戻った。戻る際、ホテルの近くの停留所近くで、別のトラムと乗用車が、衝突事故を起こしたらしく、大勢の人が、走って見に行ったりしていたが、私は、疲れていたので、無視してホテルに戻った。少々昼寝して、ホテルの近くのトルコ料理店で、夕飯にして、明日が早いので、5時のウェイクアップ・コールをフロントのお兄ちゃんに頼んで、早々に、ベッドに潜り込んだ。

○ 6月18日（月） クラクフ、アウシュビッツへ

ウェイクアップ・コールの前から、起き出して、シャワー朝食。ウェイクアップ・コールは、私のドアを、ノックして知らせてくれた。5時半に、フロントに行くと、丁度頼んでおいたタクシーが、来て乗り込んで、しばらく走ったら、帽子を忘れたのに気付いて、ホテルに戻って貰って、帽子を取って来て、空港へ。25ズオティとかだったので、30ズオティ払ってあげた。空港から、クラクフまでの飛行機もプロペラ機だった。

（クラクフへ）

（やっと、乗り込んだ、アウシュビッツ行きバス）

飛行場から、列車に乗ろうと、列車のプラットホームに、向かったら、プラットホームに、タクシーの運ちゃんがいて、列車は、一時間後だから、タクシーにしなさいと誘ってきた。今まで、誘いのタクシーには、何度か、痛い目にあっているので、つい警戒しアウシュビッツへも、1万5千円から2万円くらいで、案内するとのことだったが・・・・。今から思えば、この運ちゃんに、頼めば、クラクフのお城なども、見て回れたろうと、後悔したが、つい、警戒の余り、クラクフ本線駅までお願いした。確かに、善良なドライバーだったようで、アウシュビッツ見学（一日掛かる）2万円は、高いですかなど、聞いてきたが、今思えば、リーズナブルであったろう。親切な運ちゃんで、降りる際、あそこ

が、バスの切符売り場だなど、教えてくれた。
　クラクフ本線駅は、広くて、まず、帰りの列車の切符を買おうとしたが、これが、切符売り場が分からない。広い駅を探し回って、何人かに、尋ねて、やっと買えた。バスの切符売り場もまた、分からなくなり、探し回って、かなり時間のロスをしたようだ。
　10時台のバスで、列の前にいたポーランドの青年と一緒に行くことになったが、これが、ラッキーで、バスは、途中で、何度も停まっては、客が乗ったり降りたりするので、一人で乗っていたら、アウシュビッツ博物館の前で降りられなかったかもしれない。乗る際、運ちゃんから、帰りの切符も買わされたが、帰りのバスの時刻が、印刷されていたので、結果的には、使わなかったが、役には立った。

（クラクフから御一緒した青年と）（アウシュビッツのレストランでの昼食）

　昼飯をご馳走しようしたが、彼は、アウシュビッツ見学ではなくて、何かの用事で来た様で、レストランの場所を教えてくれて、何処かに行ってしまった。アウシュビッツ見学のガイドになって貰えるかと期待したが、残念であった。
　昼食を済ませて、早速、アウシュビッツ博物館に、入ろうとしたが、博物館には、各外国語の時間指定のガイド付きでなくては入れず、自由入場は、午後4時からとのこと。切符売り場の叔母ちゃんに、時間が無いので、4時からでは、無理と泣きつくと、時間が無いなら、フリーバスで行くアウシュビッツ収容所跡に行けばと教えてくれた。
　何度か、バス乗り場聞いて、フリーバスで見に行った。しばらく、写真を撮ってから、次のバスで、博物館前まで戻ったが、既に、帰りのバスの切符の列車に乗れる時刻の3時台のバスは、もう行ってしまった・・・・・。ガイドの男女の青年に、飛行場に行く列車に、今から乗れるのには、どうしたらよいか聞いたら、博物館の近くのバスで行ったらとのことで、バス停に飛んで行った。バス停に同じくバスを待っている男女がいた

ので、飛行機に間に合う帰りの列車に乗りたい旨、話すと、大丈夫とのこと。この青年も、親切で、バスで、アウシュビッツ駅まで行き、列車に乗ってクラクフまで行けば、間に合うとのことで、アウシュビッツ駅で一緒に降りて、列車の切符売り場まで付いて来てくれて、切符を買うのを手伝ってくれ、プラットホームまで送り出してくれた。ポーランドの若者は、皆、親切である・・・・・・、否、叔父さんも、親切である、列車を乗る前に、同じくクラクフ行きの叔父さん達がいたので、飛行機に乗れる列車に、間に合うか、聞いたら、一人は、スマホで時刻調べてくれて、間に合うとのこと。もう一人は、英語は通じないが、クラクフの一歩手前の駅で降りて、クラクフから来る列車（偶然同じプラットホーム）に乗れば、間に合うと、一歩手前の駅で一緒に降りて、このプラットホームで待っていれば良いと身振り手振りで教えてくれた。（クラクフ駅まで行ってしまうと、到着と出発の時差が、2分くらいしかなく、間に合うか、不明であったが、手前の駅で、乗れたので、本当に、助かった。）

（アウシュビッツ博物館の前）

（延々と続く収容所跡）

（鉄条網と延々と続く収容所）

アウシュビッツ駅から、クラクフまでの列車は、間に合うか焦っていた為か、ものすごく遅く感じたが、嘗て、逆方向であるが、アウシュビッツ収容所に、送られたユダヤの人々は、まさか、殺人工場に、連れて行かれるとは、思っていなかったのではなかろうかなどと、ふと考えたりした。

今回のアウシュビッツ行きは、完全な失敗旅行で、やはり、クラクフ一泊か、タクシー利用が、正解であったろうが、後の祭りであった。

（帰りのプロペラ機）

（帰ってのトルコ料理店での夕飯）

○ 6月19日（火） 帰国

昨夜、フロントに、今朝は、4時半のウェイクアップ・コールと5時半の空港行きのタクシー頼んで置いたが、4時ごろには、起き出した。リックのパッキングも済ませ、フロントで待っていたら、5時半ちょっと過ぎてから、タクシーが来た。空港までは、直ぐである。帰りの飛行機は、ワルシャワから、フランクフルトまでは、ルフトハンザ航空であったが、フランクフルトからは、全日航の飛行機であった。ラッキーなことに、私の座席の列は、私だけだったので、夕食の後は、横になって寝て羽田空港まで、帰れた。

○ エピローグ

第二次世界大戦は、ヨーロッパでは、（第二次世界大戦は、日本の満州事件後の中国への侵略が、始まりではなかろうか？）ヒトラーへのチェンバレンの融和策のミュンヘン協定でのチェコスロバキアの併合、その後のポーランド侵略で始まったが・・・。何故、人類は、戦争をするのだろうと、日頃から、日本の真珠湾攻撃など（私の偏見では、チャーチルとルーズベルトに、日本は、嵌められた？）に、至った経緯なども、疑問に思っていたが、何ヶ月か前のNHKの北極の白狼のドキュメント映画で、狼の死亡率の一番の多いのは、狼同士の殺し合いで、自分たちのテリトリーへの侵入者を必ず、殺すという生存競争の争いとの話で、人類も、動物であるので、この生存競争での争いが、戦争の原因では、と、ふと考えたら、何故か、戦争の理由が、分かったような気がしたが・・・・。第一次世界大戦で失った生存権の既得権益を取り戻したいとのヒットラーの野望（ドイツ国民の願望でも？）が、既得権益を侵害されると言うフランス、イギリスとぶつかり合ったのが、第二次世界大戦であったのであろうか。

それにしても、ユダヤの人達のホロコースト（ヒトラーは、ソ連及び第一次世界大戦後のヴォルシュビキ革命は、ユダヤ人のせいと言う思い込み、第一次世界大戦の敗北も、ユダヤ人のせいという思い込みと人種的偏見から、あのような残虐・非情なことを行ったのか。）ポーランドの人達の戦争被害は、まったく、酷すぎる話でもある。しかし、戦死者数では、ロシヤ人が、2、000万人（当初、ソ連では、高級将校が、スターリンに粛清され、スターリンは、ヒットラーは、戦争を仕掛けないと信じていた為、相当数の赤軍兵士が、殺されたのであろうか。）中国人が、1、000万人（大日本帝国陸軍兵士に、殺された。）、ユダヤ人、同じく、ドイツ人が、6百万人、ポーランド人が、5百数十万人、日本人は、310万人が、戦死した。

中年からの海外一人旅　第三十六章完